

認 定 書

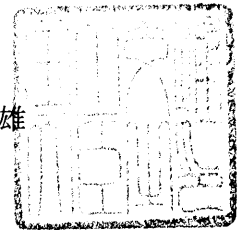
国住指第 162 号

平成 18 年 7 月 5 日

因幡電機産業株式会社

代表取締役社長 守谷 承弘 様

国土交通大臣 北側 一雄



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項(同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 5 第 1 項第七号ハ[防火区画貫通部 1 時間遮炎性能]の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号

PS060FL-0309

2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称

ケーブル/繊維混入けい酸カルシウム板・炭酸カルシウム混入ポリオレフィン系耐熱性シール材・熱膨張性耐熱シールシート材充てん/床耐火構造/貫通部分(中空床を除く)

3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容

別添のとおり

(注意) この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

ケーブル／繊維混入けい酸カルシウム板・炭酸カルシウム混入ポリオレフィン系耐熱性シール材・熱膨張性耐熱シールシート材充てん／床耐火構造／貫通部分（中空床を除く）

2. 寸法および形状等

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
開口部	(形状) 矩形 (面積) 0.6 m ² 以下
占積率 (断面積) (開口部に対するケーブル断面積の総合計の割合)	16.11%以下 (0.09663225 m ² 以下)
貫通する床の構造等	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) A L C ・床厚 100 以上 (2) コンクリート ・床厚 100 以上 (中空床を除く)

3. 材料構成
1) 主構成材料

(寸法単位：mm)

項 目		申 請 構 造		
ケーブル	総発熱量		4,102,011kJ/m 以下	
	総導体断面積		0.018084m ² 以下	
	規格		光ファイバケーブル以外のケーブルについては、次の規格のうち、いずれかに該当すること JIS C 3307, 3312, 3317, 3342, 3401, 3501, 3502, 3605, 3606, 3605 準拠 JCS 第 224 号, 第 271 号 A, 第 364 号 A, 第 376 号 A, 第 381 号, 第 396 号, 第 396 号 A, 第 402 号, 第 416 号, 第 418 号 B, 第 419 号 A, 第 420 号, 第 421 号, 第 422 号, 第 423 号, 第 426 号, 第 427 号, 第 4426 号, 第 4427 号, 第 4396 号, 第 5420 号, 第 5421 号, 第 5422 号, 第 5423 号, 第 4419 号 準拠, 第 4364 号 準拠, 第 5381 号 準拠 JCS C 第 68 号, 第 70 号, 第 71 号, 第 72 号, 第 74 号, 第 75 号, 第 76 号, 第 9074 号, 第 9075 号, 第 9076 号, 第 3271 号 準拠, 第 9072 号 準拠 TIA/EIA 568A, TIA/EIA 568A 準拠 平成 9 年消防庁告示第 10 号, 第 11 号	
	外径	光ファイバケーブル以外	より合わせ外径：85 以下	
		光ファイバケーブル	より合わせ外径：47 以下	
	導体断面積	光ファイバケーブル以外	325mm ² /本以下	
		光ファイバケーブル	125mm ² /本以下	
	本数		総発熱量を各ケーブルの発熱量で除した数以下かつ総導体断面積を各ケーブルの導体断面積で除した数以下	
	導体種類		(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) 銅 (2) アルミニウム (3) ガラス繊維(光ファイバケーブル)	
	絶縁体		(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリエチレン系樹脂 (2) 塩化ビニル系樹脂 (3) ゴム系樹脂	
シース		(1)～(3)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリエチレン系樹脂 (2) 塩化ビニル系樹脂 (3) ゴム系樹脂		
防火措置材料	シール材	材質	炭酸カルシウム混入ポリオレフィン系耐熱性シール材 (以下「耐熱性シール材」)	
		比重	1.3 以上	
		組成(質量%)		
		充てん量	高さ：50 以上 幅：30 以上	

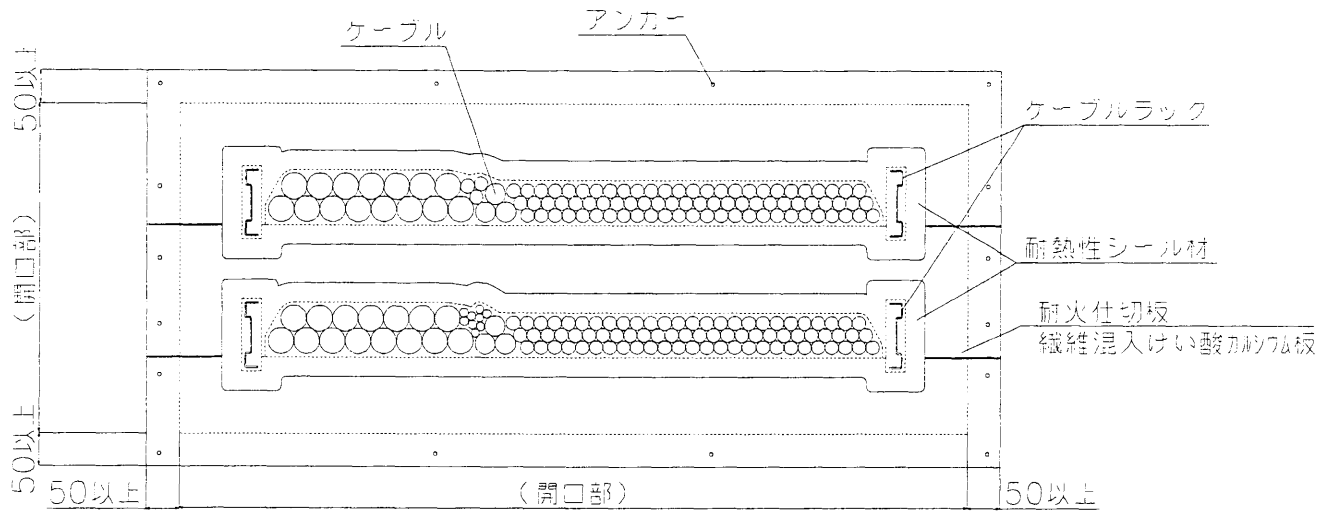
(寸法単位：mm)

項 目		申 請 構 造	
防 火 措 置 材 料	シールシート材	材質	熱膨張性耐熱シールシート材 (以下「耐熱性シールシート材」)
		比重	1.4 以上
		組 成 (質量%)	
		充てん量	幅：20 以上, 厚さ：0.9 以上
		外側貼付材	(1)～(6)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリエチレン (2) ポリプロピレン (3) ポリエチレンテレフタレート (4) 塩化ビニル (5) アルミニウム (6) なし
		外側貼付材厚さ	0.4 以下
		内側貼付材	(1)～(6)のうち、いずれか一仕様とする (1) ポリエチレン (2) ポリプロピレン (3) ポリエチレンテレフタレート (4) 塩化ビニル (5) アルミニウム (6) なし
		内側貼付材厚さ	0.4 以下
	耐火仕切板	材質	繊維混入けい酸カルシウム板 (平成12年建設省告示第1400号)
		規格	JIS A 5430
		厚さ	23 以上
		比重	0.35 以上
		床とのかかり代	50 以上
	ケーブル ラック	材質	(1)～(7)のうち、いずれか一仕様とする。 (1) 溶融亜鉛めっき鋼板 ・規格 JIS G 3302 (2) 溶融亜鉛-5%アルミニウム合金めっき鋼板 ・規格 JIS G 3317 (3) ゴムめっき鋼板 ・規格 JIS G 7122 (4) 冷間圧延ステンレス鋼板 ・規格 JIS G 4305 (5) 熱間圧延軟鋼板 ・規格 JIS G 3131 (6) 冷間圧延鋼板 ・規格 JIS G 3141 (7) 溶融亜鉛-アルミニウム-マグネシウム-けい素合金めっき鋼板
厚さ		1.2 以上	
幅		1000 以下	
アンカー	材質	(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする (1) 鋼製 (2) ステンレス鋼製	
	寸法	M6 以上×長さ 60 以上	
	間隔	420 以下	

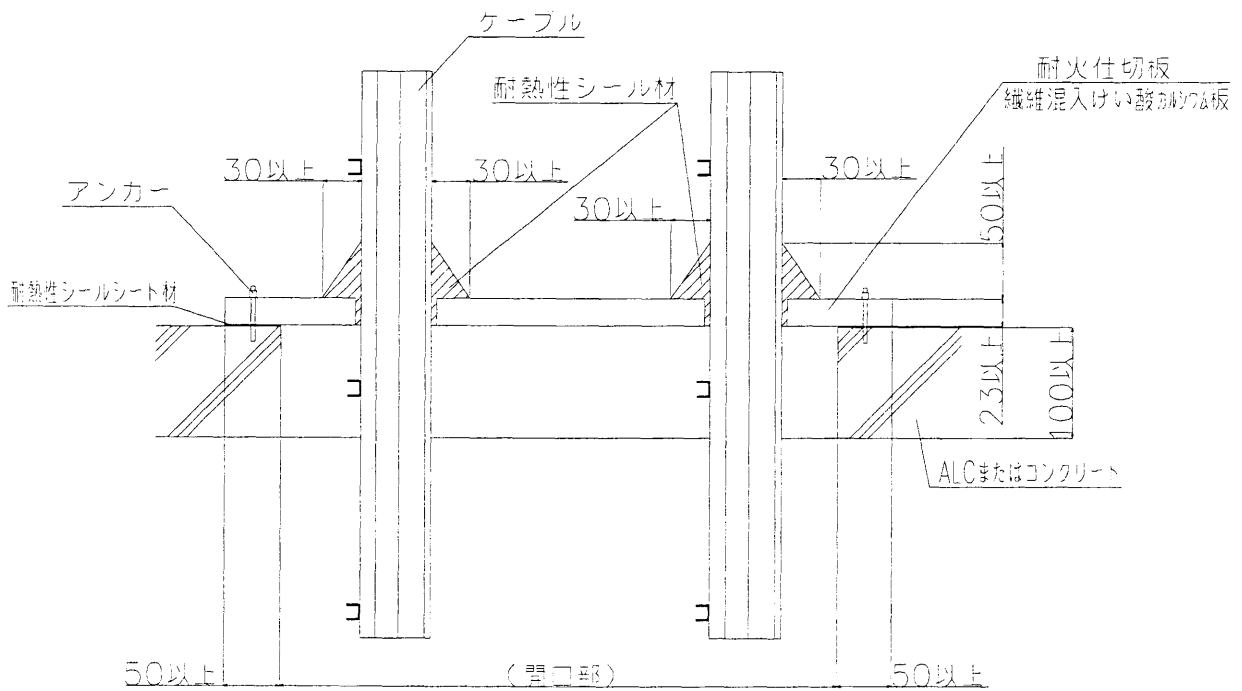
(別添-3)

4. 構造説明図

(寸法単位：mm)



平面図



断面図

注) 寸法および材料構成は 2 および 3 のとおり

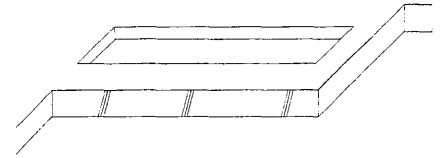
(別添-4)

5. 施工方法等

施工図（手順）を以下に示す。

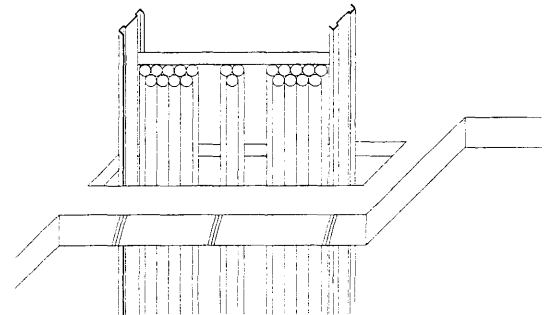
① 開口部を設ける

開口面積、ケーブル占積率及び床厚等を考慮して開口を設ける。



② ケーブルの配線

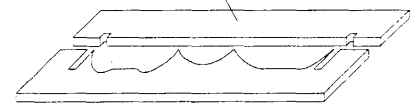
ケーブルラックにケーブルを配線する。



③ 耐火仕切板の切断加工

開口部の寸法、貫通しているケーブル・ケーブルラックの形状に合わせ、繊維混入けい酸カルシウム板（厚さ 23mm 以上）の切断加工を行う。

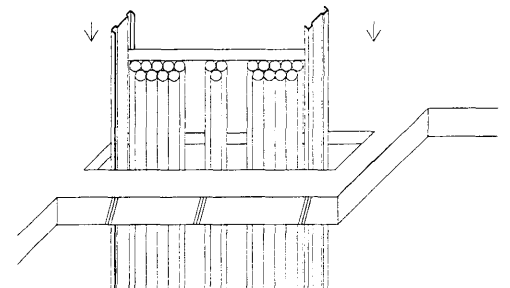
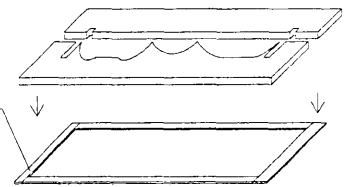
繊維混入けい酸カルシウム板



④ 耐火仕切板の取付けとかがりしろ部分の耐熱性シールシート材の充てん

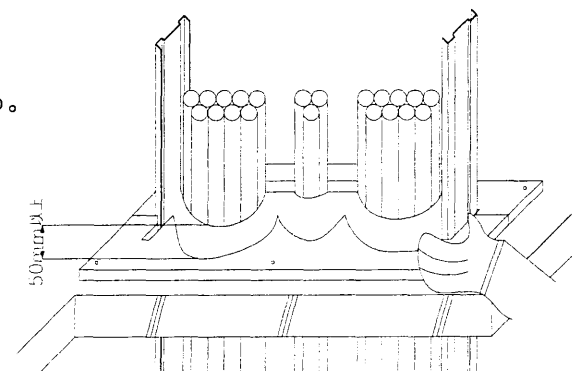
切断加工された繊維混入けい酸カルシウム板をアンカー等を用いて間隔 420mm 以下で床に取付ける。その際、耐火仕切板と床との間に耐熱性シールシート材（幅 20mm 以上、厚さ 0.9mm 以上）を取付ける。（耐熱性シールシート材はテープ等で仮固定して取付けても良い。）

耐熱性シールシート材



⑤ 耐熱性シール材の充てん

ケーブルと耐火仕切板との隙間を耐熱性シール材を用い密に充てんする。この場合、片面の盛上げ高さは 50mm、幅 30mm 以上とし、隙間等ない事を確認して仕上げる。



6. 注意事項

本構造に使用する耐熱性シール材及び耐熱性シールシート材については、耐久性に留意し、所定の耐火上の性能が維持されるよう適切な処理を行う必要がある。